

学校だより

白山市立鳥越中学校

特別号

令和6年9月4日(水)

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果・分析

4月18日(木)に実施しました3年生対象の全国学力調査の分析・考察について報告致します。変化の激しい社会の中でより良く生きるためには、子どもたち一人一人が自ら個性を発揮し、困難な場面に立ち向かい、未来を切り拓いていく力が求められます。このために必要となるのは、自ら学び自ら考える力などの「確かな学力」、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」などの「生きる力」です。子どもたちの「生きる力」は、学校だけでなく、家庭や地域と一緒に育むものですが、学校では、これからの生涯学習社会の中で、社会に出た後も生涯学習続けることができる基礎的な資質や能力を育むことを重視しています。

つきましては、本校でも調査結果を授業改善及び学習指導や生徒指導の改善・充実のために反映させ、子どもたち一人一人に応じて指導するなど「わかる授業」を行い、「確かな学力」を育むことができるように努めてまいります。

1 分析・考察・改善策

【国語】

分析・考察

知識や技能に関する問題は全般的に正答率が高く、特に我が国の言語文化に関する設問や情報の扱い方に関する設問において、その傾向が顕著であった。一方、文脈を踏まえて自分の考えを書く問題や、物語の続きを考えて書き、工夫した表現の効果を説明する問題、内容を要約する問題において正答率がやや低く、無回答も見られた。

改善策等

- ◆書くこと、身近な相手に話すことを抵抗なくできるよう書きやすい・話しやすい題材を設定する。
- ◆文章を書かせる場面を授業の中に設定するとともに、生徒同士読み合い、工夫点を意識して講評する機会を確保する。

【数学】

分析・考察

データの活用に関する設問の正答率が高かった。記述式の問題において、自分の考えを書くことができている。しかし、数学用語を用いて求め方や考え方を適切に表現することに課題がある。また、知識・技能を問う設問の正答率がやや低く、基本的な学習内容の定着が不十分であった。

改善策等

- ◆基礎的な知識・技能を定着させるため、プリント演習や小テストを行う。また、各単元や授業の導入で、既習事項を確認する。
- ◆数学用語を用いて表現したり、問題解決の方法を説明したりする場面を設定する。表現した内容を振り返る活動を設定し、考えの根拠や事柄が成り立つ理由を吟味することで適切に表現する力を養っていく。

2 学習・生活の状況（質問紙調査より）

（1）主な質問事項についての結果と分析・考察

- ①「自分には、よいところがあると思いますか」の設問での肯定的な回答の割合が95%近くあり、高かった。生徒同士が良いところを見つけて名前やその内容を書いて紹介する「とりごえもんの羽」の取り組みによって、1人1人の自己有用感が高まっていると考えられる。
- ②多くの生徒は規則正しい生活が送れているようである。しかし、ゲームをする時間や携帯電話・スマートフォンでSNSや動画視聴などを行っている時間（平日）について、5割弱の生徒が2時間以上と答えており、3時間以上と答えている生徒もいる。また、平日1時間以上の家庭学習をしている生徒は約5割という結果で、家庭学習の習慣が身につけている生徒もいるが、学習に対する関心が低い生徒も多い。

（2）改善策等

- ①生徒同士で良いところを見つける「とりごえもんの羽」を継続する。授業や行事等各活動において、生徒が互いの考えを交流し、互いのよさを学び合う場や、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができるような課題を設定するなどしながら、生徒が互いのよさを認め合い、自己有用感を高められるようにしていく。
- ②今後も規則正しい生活が送れるように生徒たちの様子を把握していく。家庭学習の充実を目指し、ガリガリノートの表彰や取り組み内容の紹介などを継続していく。また、キャリア教育を通して将来の生き方を考える中で、学ぶ大切さに気付き、学習意欲が高まるようにする。各教科で効果的な学習内容を提示したり、個々の生徒に応じて学習方法を助言したりしながら、粘り強く課題に取り組む態度を育てていく。

本校ではこのような機会を通して、生徒の学びが一層充実するよう改善活動に取り組んで参ります。